

沖縄県特別支援学校体は、短距離走や長距離走、育連盟は「養護学校で学ぶ児童・生徒により充実した体育教育を」を目的に平成元年に発足した。現在は県内の特別支援学校知的障害教育校13校が加盟する。2年間の輪番制とする事務局校を中心に、毎年、体育研究発表大会（7月）、特別支援学校体育大会（11月）、特別支援学校駅伝競走大会（2月）の三つの事業を担っている。



特別支援学校体育大会高等部
一般男子1000m競走の様子

また、事務局の体育科で考案し、各校にDVDを配布している「特体連ダンス」は、この体育大会の他、各校の体育行事やPTA行事などさまざまな場面で踊られている。このダンスは、生徒や教師、保護者まで曲が流れると自然に身体が動き出すほどである。

近隣の中・高生のボランティアや、競技へ

体育大会や駅伝で13校が親睦深める

の他障害種校のオブザーバー参加も、大会を盛り上げてくれている。さらに昨年は、地域のロータリークラブに駅伝競走大会の優勝旗を寄贈していただいた。

県内全特別支援学校の体育教師が参加する体育研究発表大会は、より充実した体育指導を目的として、毎年3校の授業実践と研究発表を行う。研究テーマに沿った講演会や実技講習会もあり、本年度は九州共立大学の信田よしの名誉教授を講師に招き、スポーツ吹き矢体験学習を行った。

これからも「生徒の可能性」を信じ、スポーツを通して豊かな人生を育むよう保護者や地域、関連機関と連携を図り本連盟の活動を盛り上げていきたい。

（大城広美・沖縄県特別支援学校体育連盟事務局長）
〔終わり〕